



- [日本](#) [世界](#) [製造業](#) [医療](#) [建設業](#) [不動産](#) [化学品](#) [物流](#)
[その他](#)
[デジタルトランスフォーメーション](#) [ファイナンス](#) [教育](#) [農業](#) [エネルギー](#) [観光](#) [食品](#) [サステナビリティ](#) [その他](#)

TRENDING [M&A](#) [イノベーション](#) [環境保護](#) [ケース・パートナーシップ](#)

[おすすめの読み物](#) [よく読まれている記事](#)

出版物 [記事](#) [インタビュー](#) [広告](#) [告知](#) [データベース](#) [企業](#) [データベース](#) [リーダー](#) [データ](#)
[ベース](#)
[About](#) [About us](#) [Contact Us](#) [Social](#)
[Media](#)

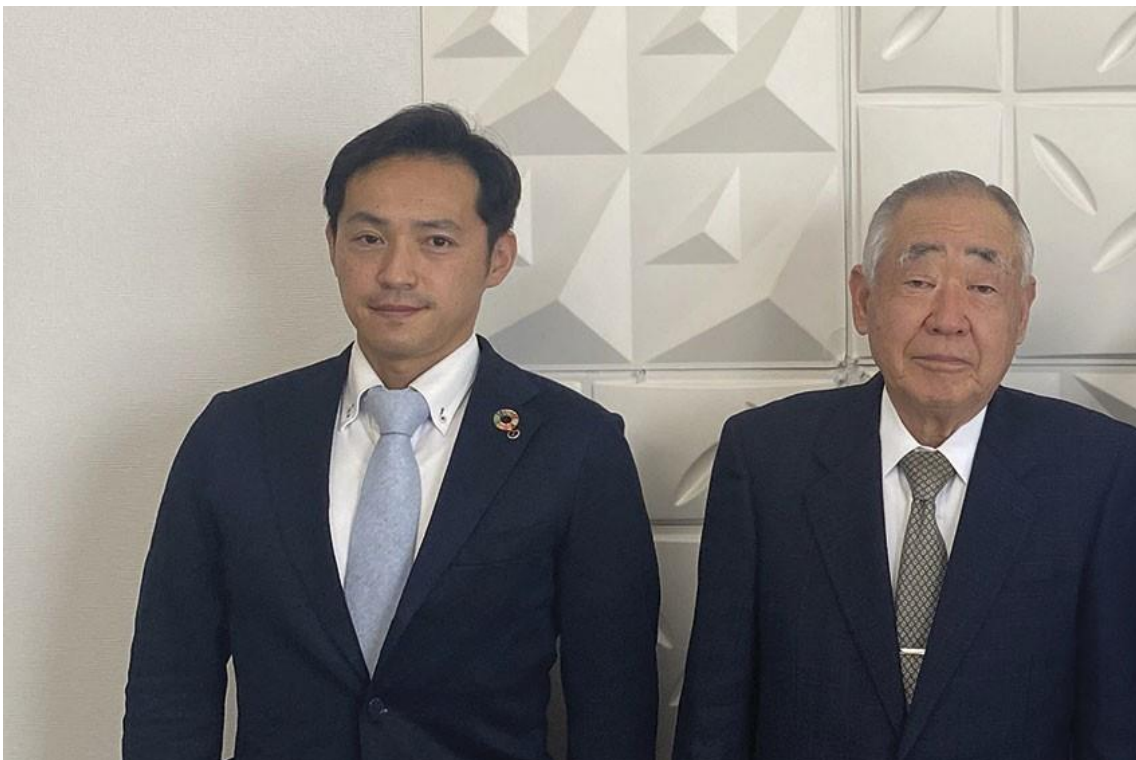
日本

[製造業製造業](#) [その他アジア・パシフィック日本](#)

次世代パッケージングを提供する日本モールド

インタビュー - 2023年1月18日

日本一の卵トレイメーカーである日本モールドは、包装業界がプラスチック使用量の削減を目指す中、持続可能なソリューションを提供しています。



日本モールド工業株式会社 代表取締役社長 石原明（右）、常務取締役 石原丈宏（左） | ニュースリリース | 中外製薬株式会社石原明 | 日本モールド工業株式会社 代表取締役社長

2023/01/19 17:22

ワールドフォリオ次世代パッケージングを提供する日本モールドینگ

御社は紙成型品のスペシャリストとして、さまざまなソリューションを生み出し、ここ日本でナンバーワンの卵トレイメーカーとなりました。韓国、中国、台湾などと比べて、日本の包装技術の優位性はどこにあるとお考えですか？

一般的に、プロセスを継続的に改善するためには、ボトムアップのアプローチが必要だと思います。一人のリーダーに従うというより、集団で努力するという事です。私たちの進歩は時に遅いかもかもしれませんが、着実に進んでいますし、私たちは皆、同じ船に乗っていることを自覚しているので、まるで家族のように調和して働いています。私たちは常にプロセスを合理化し、それが鍵になります。当社は愛知県に設立され、現在も愛知県に拠点を置いています。そのため、創業以来、日本全国のお客様のニーズに応え、養鶏用エッグトレーのトップメーカーとしての地位を確立してきました。

また、私たちが目指すのは、持続可能な社会の実現です。利益も大事ですが、それ以上にすべてのステークホルダーに配慮しなければならないので、持続可能性を前提としたモデルで事業を展開していきたいと考えています。私たちは、デザイン、金型、生産、販売、物流をすべて自分たちで行っています。原料の古新聞は歴史的に安価なもので、安城市と契約し、一軒一軒訪問して直接回収しています。この活動は、古紙とゴミの分別を徹底して行うという行動変容にもつながります。この地域のゴミの20%は紙類なので、私たちはゴミの量を減らす手助けをしています。これはWin-Winの関係です。

日本は今、人口減少という大きな変革期を迎えています。すでに人口の28%が65歳以上となっており、この傾向は今後も続くでしょう。紙成型品に特化したパッケージング企業として、高齢化社会に対応したパッケージをどのように採用しているか教えてください。

それは、日本社会にとって非常に深刻な問題です。戦後60年間、人口は増加の一途をたどってきました。戦前は約4,300万人だった人口が約3倍に増え、現在は減少傾向にあります。しかし、日本はまだ製品の生産が盛んで、90%以上がプラスチックで、紙は10%以下ですから、パッケージング会社としてはあまり心配していません。

私たちは市場シェアを拡大し、より経済的で環境に優しいパッケージに注力しているため、政府の支援を受けながら行動を変えています。来月2022年4月から、スプーンやナイフなどのプラスチック製カトラリーを使用しないよう、政府の方針が変更される予定です。ヨーロッパでの調査によると、パッケージがゴミの50%以上を占めており、パッケージに使用されている25%のプラスチックは紙に変換されるため、これは私たちのビジネスをますます拡大する上で非常にポジティブな材料となります。私たちは、紙製の卵用トレーだけでなく、食品用トレーやパッケージも提供していますので、あとは私たちの視点をアピールして、ビジネスに集中していくだけです。

プラスチックは公害を引き起こす最も悪い材料の一つです。金型と水、植物性材料、再生紙を混ぜたものを使う紙の技術がありますね。プラスチックと比較して、この製品がどのように優れているか、また、どのように環境に優しいかについて教えてください。

当初は、果物用トレイ、工業用部品、自動車用部品など、さまざまな種類の小型パルプ製品を紹介し、長期的に顧客企業の利益率を高めることを目指したが、現在では、果物用トレイ、工業用部品、自動車用部品など、さまざまな種類の小型パルプ製品を紹介している。さらに、青果物などの鮮度や硬さ、柔らかさなどの特徴を維持したまま、寿命を延ばすことができるのも大きなポイント。日本モールドは、野菜や果物の特徴を生かし、消費されるまでの時間をできるだけ長く、新鮮に保つ。これは私たちのポリシーであり、今後も継続的な課題です。

パルプモールドは、植物繊維を含む古紙と水を混ぜ合わせた紙成型品で、生分解性、リサイクル性に優れ、従来のプラスチック製品の代替となる100%エコな製品です。つまり、100%環境にやさしく、生分解性、リサイクル性に優れ、従来のプラスチック製品の代替となるもので、社会貢献度の高い製品です。消費後のパッケージは実質的にゴミであり、そのゴミの量を最小限にする義務がありますから、パルプが解決策になると考えています。リサイクルするのが一番良い方法ですが、必ずしも便利ではありません。

世界の包装材を見ると、プラスチックは7,800万トンあり、14%しかリサイクルされていませんが、そのうちの多くがリサイクル過程で失われ、最終的にリサイクルされた製品になるのは約2%にすぎません。パルプモールドやカートンボックスのような特定の製品を含む紙製パッケージについては、約60%がクローズドループでリサイクルされています。ですから、私たちはパルプモールドの方が環境的に良いソリューションだと考えています。



フルーツトレイ



ワンウェイパレット
"LOGIPALE"



アップルトレー ギフトボックス



事業継続計画（BCP）の観点から、コヴィッドの需要の変化や、長期的な構造改革を実現するための役割を果たしましたか？

コビットの大流行期にはサプライチェーンがストップし、外出やレストランでの食事、買い物が制限された。その結果、食品包装の産業用需要は物流の混乱に伴い10%以上減少しました。一方、良かったのは、卵パックや家庭用のパーソナルバルブ型と呼ばれるものの需要が増加したことです。これらの製品はサイズが小さく、当社のマージンも少ないのですが、長い目で見れば、コロナウイルスはすぐにはなくならないので、これらの製品を使って家庭で食事をするに慣れる人が増えるのではないかと考えています。コロナウイルスはすぐにはなくならないので、しばらくはこのウイルスが私たちと一緒にいることになるでしょう。ですから、この事業分野は少なくとも今のところはまだ大丈夫だと考えています。

エッグトレーのほか、さまざまなタイプの青果物用トレー、物流用緩衝材や梱包材などがありますね。売れ筋の商品と主な顧客層について教えてください。

当社の主力製品のひとつに、輸送用コンテナ内で使用できる輸送用パレットがあります。通常、企業が使用するプラスチックは、輸送する製品に振動を与えますが、当社の輸送用パレットは、その振動を吸収し、製品をより良く保護します。パルプモールド（古紙100%）と段ボールでできているので、ハイブリッド製品ですが、どちらもリサイクル性が高い素材です。ダンボールは外側の表面を形成し、内側はパルプモールドで強度を高めています。また、非常に軽量でコストパフォーマンスに優れています。

今後、国内外を問わず、この物流用パレットに注目する企業が増え、その魅力は本体の低価格化にある。ただし、湿度に弱いというデメリットはありますが、お客様がそれを理解した上で、倉庫内の湿度を良好に保つ適切な保管方法を採用すれば、問題ありません。

当社のエッグトレーはB2B製品であり、使用される企業には湿度の問題を解決するための適切な保管設備が整っています。また、当社のパルプモールドは、雨天時など長時間水に触れても大丈夫なので、耐久性があり、かつ安価なため、ますます人気が出てきているようです。

このロジパレパレットpは、日本ではDHLが主要取引先であるとのことですが、海外ではどのような需要があるとお考えですか？国際的には、どこで需要があるとお考えですか？この技術を本当に必要としているのは、どの市場や場所だと思われますか？

現在も販路開拓のための交渉を続けており、輸出を目指す国内のメーカーとも話をしていますので、卵トレイだけでなく輸送用パレットの需要も増えていくでしょう。また、これまでプラスチック製のトレイを使っていたコッフェメーカーも、当社のパルプモールドトレイを使い始めています。中国や台湾製のトレイが多い中、当社のトレイは日本製の高いスペックで作られています。耐油、電子レンジ対応で、新工場も建設している。

日本はGDPの3%もの研究開発費を投入していることで知られています。パルプモールド2.0について、また、新製品を生み出すためのさまざまな新しい戦略について教えてください。

パルプモールド2.0は、特に冷凍食品の分野では、トレイが普及し、食品メーカーも中国メーカーのパッケージより当社の製品の方が高品質と判断して注目しているので、将来性は高いと思います。また、食品を製造する日本の企業の多くは、食の安全保障の観点から、当然、日本国内で生産されたパッケージを希望しています。この工場で生産しているトレイは、世界初のものなので、日本の食品メーカーからも注目されています。そのため、冷凍食品は有望な分野の一つです。近々、長野に新工場がオープンし、冷凍食品用の紙トレイの生産能力が年間1,000万パックから1億パックに拡大されますので、すでにその需要は想像できると思います。

ビジネスモデルにおいて、コラボレーションやコ・クリエーションはどのような役割を担っていますか？

私たちは今、パートナーを探しているわけではありません。なぜなら、私たちのコア製品を生産するのに必要な能力はすべて持っているからです。しかし、パルプモールド2.0を実現するための私たちの戦略は、オープンイノベーションと相互扶助に基づいています。市場動向を常に把握する必要があり、京都大学との連携はその一助となります。オープンイノベーションの成果は、国内だけでなくグローバルにも役立つと思います。ヨーロッパでもアジアでも、既存のパートナーと協力することで、日本のデザイン・品質であることが評価されている当社の製品を、その地域の市場に送り出すことができます。原材料の調達を考えていませんが、将来的な製品化に向けて、さまざまな組織と協議を進めています。

タイには2014年から進出しており、マレーシアやメキシコにもパートナーシップを結んでいますね。Covidの前に、ヨーロッパのパートナーとのジョイントベンチャーについてお話されていましたね。国際戦略について、また、ビジネスを成長させるために特に力を入れている市場について、詳しく教えてください。

現在も建設中の拠点は2カ所あります。一つは長野で生産拠点、もう一つは物流拠点で、内需が中心ですが、地理的に近いので東南アジアにも声をかけています。地政学的な問題が安定すればビジネスができるかもしれませんし、東南アジアの中でも経済的、投資的に魅力的な国が優先されるでしょう。また、海外市場での商品力を高めるために認証取得を進めており、カートンボックスでは包装会社をターゲットにしています。

4年後、御社の70周年記念に再びインタビューさせていただくとしましょう。そのときの会社の目標や夢、また、そのときまでに達成しておきたいことを教えてください。

私は82歳、できるだけ長生きしたいので、あと4年で86歳になりますが、パルプモールドの新しい可能性を見出し、パルプモールドメーカーとしての当社の存在感を高めたいという夢と野望はまだ持っています。特にプラスチックの代替品として、紙を使った製品の需要はまだまだ伸びると思っていますし、いつか東南アジアにも工場を作りたいと思っています。

関連コンテンツ